

【細波】 さざなみ

群馬・栃木・埼玉・長野・岐阜・山梨・奈良・滋賀。さて共通する特徴は…？

そうです。日本の都道府県の中で海に接していない八県です。

滋賀県には海はなくとも琵琶湖があります。そして「細波」という美しい枕詞があります。

「細波の」「細波や」は琵琶湖南西岸の「志賀」「大津」「比良」「三井」に掛かる枕詞です。「波」から「寄る」「夜」「浜」にもかかります。

「さざなみ」は「さざれなみ」の音のつまった言葉で「ささ」は「ささやか」「ささやく」のように小さいという意味です。したがって細波は小さい波、細かに立つ波という意味になります。同義語の「さざらなみ」に至っては擬声語のようにも聞こえます。美しい調べですね。

万葉かなでは「佐佐」「佐散」と表記され第二音節が清音「さ」ですが、その後濁音「ざ」になったようです。漢字も「細波」の他「小波」「楽浪」「漣」があります。

滋賀県は昔近江の国といいましたが近江は「淡海(あふみ)」すなわち琵琶湖の古名から音を引いています。淡は淡水を意味します。

『近江国風土記逸文』に「淡海国は、淡海を以ちて国の號と為す。故に一名を細浪の国と云ふ。目前に湖上の漣漪(さざなみ)を向ひ観るが故なり。」と明快に説明されています。

「近江」という表記は、浜名湖が「遠つ淡海＝遠江」であるのに対し、琵琶湖は都に近いので「近つ淡海＝近江」となったようです。

琵琶湖は「淡海」のほかに平安中期以降「鴉の海(にほのうみ)」ともよばれています。

鴉(にほ)とは鴉鳥、湖や沼に住み小魚を食べるカイツブリのことです。『古事記』歌謡三八に「にほ鳥の淡海の海に…」という用例がみられます。

「志賀」は琵琶湖南西岸の地域で、天智天皇の大津宮があったところです。壬申の乱以降、宮は荒れるに任かせていたようです。乱の二十年後この地を訪れた柿本人麻呂は長歌にその印象を詠んでいます。

<http://www5e.biglobe.ne.jp/~narara/newpage%201-29.html>

人麻呂の長歌は堂々として迫力がありますね。

この歌の影響なのでしょうか、「志賀」を詠んだ歌には哀惜的な歌が多く見受けられます。

・細波や志賀の花園見るたびに昔の人の心をぞ知る 『千載集』祝部成仲
などその代表といえるでしょう。

滋賀県は歴史も古く歌枕の豊富な、すなわち茶趣に事欠かない地域です。南部の大津から時計周りに「琵琶湖周航の歌」でも口ずさみながら湖畔を散策してみましょう。

http://www.hi-ho.ne.jp/momose/mu_title/biwako_syuukouno_uta.htm

古都大津の周辺には近江八景が点在しています。近江八景とは中国湖南省洞庭湖南部の瀟湘八景に倣い選定した景勝地で・瀬田の夕照・栗津の晴巒・矢橋の帰帆・石山の秋月・三井の晩鐘・唐崎の夜雨・堅田の落雁・比良の暮雪の八景です。

牧谿や玉潤の水墨画でお馴染みの瀟湘八景は四季の変化より天象の変化に重きを置いた選定と

いえましょう。近江八景は琵琶湖を洞庭湖に見立て、地名だけ入れ替えたものです。

三井寺については「折々の銘 32・33」をご参照下さい。

堅田から湖西を北に向かうと左手には比良の山波が連なります。比良山地から振り降ろす風は、
宮内卿の

・花さそふ比良の山風吹きにけりこぎゆく舟の跡見ゆるまで

という『新古今集』ならではの雅な歌を生み出しました。

今津・竹生島・長浜の地名は「琵琶湖周航の歌」にも登場します。

湖北へ移り、賤ヶ岳七本槍で名高い古戦場を過ぎると美しい仏像を安置する寺々が点在します。
私のお薦めは向源寺(渡岸寺)です。この寺の国宝十一面観音像は平安時代初期の一木造で檀像様の白眉といえる名品です。

<http://www001.upp.so-net.ne.jp/flymetothemoon7/ddd45x.html>

小谷城を左方向に鈴鹿山脈を遠景に南下しましょう。湖東には国宝彦根城があります。お茶人は井伊直弼の名と湖東焼を忘れるわけにはいきませんね。

大窯業地信楽は更に南に位置します。近江八幡を経て紫式部が『源氏物語』の想を練った石山寺までくれば、大津は目の前です。

急ぎ巡ったため見落した名所は、地元の皆様に補説をお願いしましょう。

名所のみならず、近江は鮎料理・鮎鮓など珍味の宝庫であることを付け加えずには筆は置けません。

<http://www.morita-fumiyasu.com/>

~ Copyright (C) 2011 ~私の書齋~ 森田文康. All Rights Reserved.~